

# 大師線沿線を歩き川崎大師・大師公園へ

日時:2021年12月5日(日) 天候:晴れのち曇り 14000歩 約10km

集合:京急川崎駅改札口 10時

コース:京急川崎駅→六郷の渡し跡→港町駅(港町13番地の歌碑)→川崎河港水門→医王寺→富士見公園→八幡神社  
→伊勢町商店街→大師公園(潘秀園)→川崎大師→京急川崎大師駅

参加者:L=畠 SL=奥村&岩元 佐藤伊 勅使河原 吉越 平嶋 小作 平石 大平 高橋文 小野里 青松 奈良  
熊島 佐藤繁 小林 河野 小島 平林 上曾山 高橋友 脇坂 吉田 飯田 古尾谷 鹿島 原田 及川 福田  
山口 鈴木宏 篠 宿澤 高橋吉 内田 網谷 計37名

かつては「工都」とも言われ、日本の高度経済成長期を支えた煤煙と排ガスの川崎市も、現在では空も青く、高層マンションが建ち並ぶ首都圏有数の住宅地となっています。今回はそのような川崎市の歴史と紅葉を愛でるウォークとなりました。

五街道が整備された江戸時代、東海道品川宿を出た旅人は多摩川の渡りで川崎宿に入り、名物の奈良茶飯を食べて西に向かいました。ところでこの「川崎」ですが、鎌倉・室町時代までは「河崎」と表記されており、江戸時代からは「川崎」という表記が一般的に使われるようになりました。名の由来はその地形からついたもので、川は多摩川、崎は三角州を指しているそうです。つまり多摩川がつくった河口のデルタ地帯という意味でした。また昭和の歌姫美空ひばりが好んで歌った「港町十三番地」の舞台でもある港町は、ひばりが所属した日本コロムビアが有った場所。実際には九番地でしたが語呂の良さから十三番地となりました。私もこれまで歌の舞台はてっきり横浜だと思っていましたが、まさか川崎だったとは・・・

地元住民ながらまだまだ知らないことも多く、何かと勉強になった一日となりました。

<フォトレポート 小島>



※大師公園内の潘秀園にて秀湖に面する藕香榭で全員集合。6年前にも同じアングルで撮りましたが、当時のレポートを見直したところ、参加者数も今回と同じ37名でした。何とも縁のある場所です。



朝の京急川崎駅改札前。連絡とれない会員が一名出た。



肌寒い中、京急大師線に沿ってストレッチ場所へ向かう。



東町公園で河野さんによるストレッチで身体をほぐす。



日頃鍛えているせいか動きも機敏！見習いたいもの。



本日は畠 L,奥村・岩元 SL の布陣。



新会員が増え顔と名前が・・・



初の上りは六郷橋への階段。



橋の欄干には六郷の渡し舟のモニュメントがある。



リーダーから説明があったが車の音が煩くて・・・

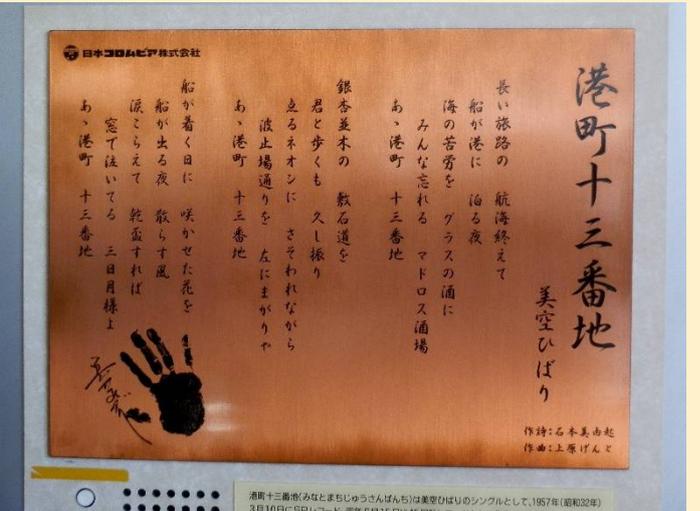


六郷大橋は度々流されたので、明治に入るまでは舟渡しだった。渡船は後に川崎宿が請負となり宿の財政を支えた。



KWCのクラブ旗を川風になびかせ畠リーダーが行く。

大師線沿いに港町駅へと向かう。♪赤い電車に白い帯～



駅構内には「港町十三番地」の歌碑が。ここだったのか！

石本美由紀作詞、上原げんと作曲の昭和の名曲。



この曲は港町駅の発車メロディーにもなっている。

駅付近は近代的なマンション群となっていた。



リーダーを先頭に多摩川土手を往くKWC一行。対岸にはマンションが林立している。(後方部隊、遅れ気味ですよ～)



※ここは川崎河港水門。大正末期に運河計画の一環として設計され昭和3年に完成した。古来より水運に利用されてきた多摩川の堤防の一角から内陸部に運河を開通させ、開鑿により生じる土砂で兩岸を埋め立てて、工場や住宅地にする大規模計画だったが、戦争等の影響で水門から220m開鑿されただけで中断された。この水門は、二つの塔とそれを結ぶ梁とゲートにより構成されていて、塔の上には川崎の名産品であった梨・桃・葡萄をモチーフにした巨大な彫刻が配されている。梨については、有名な「長十郎」が生まれたのは水門からほど近い出来野、外国産の桃を栽培するようになったのは大師河原が最初だった。また近隣では葡萄の栽培も行われていた。現在では見る事ができないが、完成当初は梁の側面にエジプト様式の舟がレリーフ状に描かれていた。1998年には国の登録有形文化財となった市内に残る貴重な建造物といえる。

(川崎市HPより抜粋)



医王寺でトイレ休憩。街中にありながらも静かな環境に建つ平安時代創建の天台宗寺院。



ランチは川崎市初の都市公園でもある富士見公園で。初冬の日差しの下、落葉の絨毯の上で風流な時を。



正面から陽を受け満腹で眠くなりそう？



フードを被り北風を避ければランチが旨い！



マスク姿がすっかり馴染んでしまった昨今、マスクを外せば逆に誰だか分からなくなりそうで・・・ビフォー&アフター？



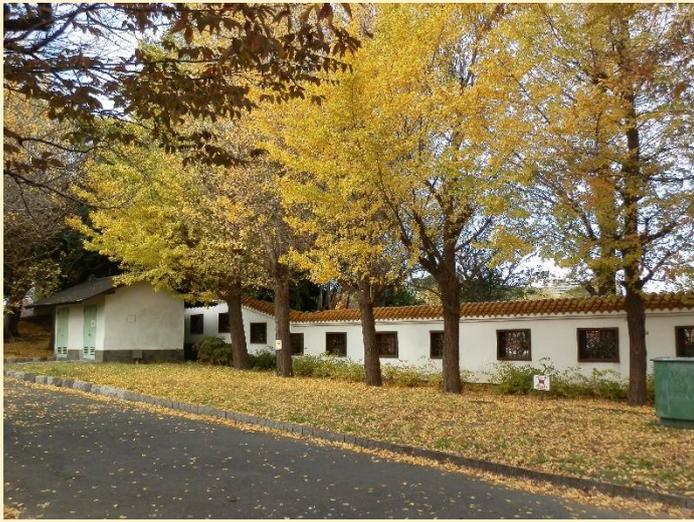
午後の部は八幡神社から。ここは俳人の正岡子規も訪れている。門前には正岡子規没後百年記念碑と句も。



ここからは伊勢町本通商店街。人通りもなく所々に店が点在するだけで全く活気が感じられない。



大師公園に到着。ここは紅葉が真っ盛りで辺りは黄色一色に染まっていた。



瀋秀園の白壁とオレンジ色の瓦が紅葉に映える。



ここが正面入口。中国風の門(垂花門)が迎えてくれる。



※瀋秀園:昭和62年に中国の瀋陽市と川崎市との姉妹都市提携5周年を記念して瀋陽市から寄贈され造られた中国式自然山水庭園。中国の庭園技術指導団の指導と協力の下に造成が行われ、「瀋陽の素晴らしい景色を集めた庭園」という意味があり、建物に使用されている瑠璃瓦、木組、獅子像、太湖石は瀋陽市から寄贈されたもの。



園内にはまだ赤い紅葉も残っていて鮮やかだった。面積は狭いが回遊式庭園となっていて楽しめた。



皆さん池を巡りながら残りの紅葉を楽しんでいるようで。ここが川崎とは・・・市のイメージアップに繋がったかも。



瀋秀園を出て大師公園内に行く。紅葉に見送られて・・・



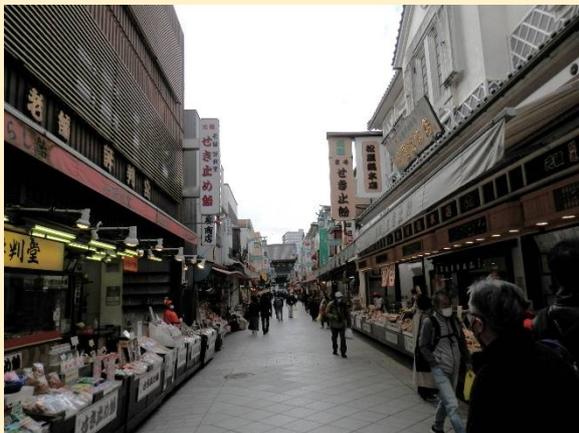
川崎大師参道に近づくほどに人が多くなってきた。



畠上より「ここで解散し、距離は大師駅までとします」



参拝する人、お土産を買う人・・・お後は御自由に。



参道には名物の葛餅やのど飴を売る店が。



京急川崎大師駅。初詣には参拝者で賑わう。

### <今日の一言>

私事ですが、川崎市民となって早いもので半世紀を経ました。世田谷に居た頃には多摩川越しに、工場からの煤煙で覆われた遙か川崎の空を眺めたものですが、まさかそこに住むことになるとは・・・住めば都とはよく言ったもの。

この日は川崎駅の東側、かつて工場の煙突が林立していたエリアのウォークでしたが、今ではマンション群が煙突の代わりに林立していました。さてこれから50年後の川崎は、果たしてどのような姿になっているのやら・・・

END